

地域密着型金融の取組み状況 (27年4月～28年3月)

倉吉信用金庫

1. 地域密着型金融推進の基本方針

当金庫の経営方針は、『創業の原点である相互扶助の精神を大切に、「地域の為に貢献する」という使命感を再認識し、今こそ地域社会の再生と活性化を目指し「使命共同体」としてその中核となって、中小零細な地元企業の支援、地域住民の豊かな生活の向上、活力ある地域社会の実現に向けて貢献し、そのために強固な経営基盤をさらに確固たるものにし、“小さくても最良のくらしん”を実現すること』であり、地域社会の再生と活性化なくして当金庫の発展はないという認識の下で、地域密着型金融推進に継続して取り組んでいきます。

2. ライフサイクルに応じた取引先企業の支援強化

《取組方針》

地域金融機関としての特性を発揮し、地域情報ネットワークの活用と、継続的取引関係を通じ、取引先中小企業の創業から成長段階（ライフサイクル）に応じたきめ細かい支援を行うことで、地域の金融円滑化の役割を担っていきます。

(1) 創業、新事業への積極的な支援

創業、新分野進出に対しては、地域情報ネットワークを活かし、積極的に対応いたしました。

○新規参入・新分野進出への支援

平成27年度の実績 … 15件・550百万円

(2) 事業及び企業の積極的な再生支援

○貸出条件の変更に積極的かつ柔軟な対応

中小企業金融円滑化対応として、取引先の資金繰り改善を目的として、積極的に対応いたしました。

平成27年度の実績 … 124件・1,309百万円

○とっとり企業支援ネットワークの積極的な活用

平成 27 年度の当金庫取引先のとっとり企業支援ネットワーク案件は 7 先です。うち当金庫持込案件は 4 件です。またよろず支援拠点利用先は 11 先です。今後も地元金融機関として外部専門家と連携し、企業支援に努めます。

○産・官・学・金との情報ネットワークを活用した、地域の取引企業への支援

- ・商工会議所が中心となって運営している産・官・学・金の会「中部元気クラブ」に当金庫役員が中心となって参加し、積極的に情報交換しています。
- ・独立行政法人産技術センターと連携し、飲料水の材料の成分分析をおこない商品化に結びました。

○再生支援先の経営改善指導

- ・平成 27 年度は経営支援先 29 先を定め、うち 6 先を重点先とし経営改善指導の取組を実施し、経営者とのヒアリングや、営業店長との計画の進捗状況の検討を行いました。

期初債務者数 (除く正常先)	うち 経営改善 支援取組 先数	うち 期末に債務者区分 がランク アップした 先数	うち 期末に債務者区分 が変化し なかった 先数	うち 再生計画 を策定し ている先 数	経営改善 支援取組 み率	ランクア ップ率	再生計画 策定率
321	29	0	28	28	9.03%	0.00%	96.55%

3. 事業価値を見極める融資手法をはじめ中小企業に適した資金供給手法の徹底

《取組方針》

定性情報を含めた地域での情報を活かし、取引先の事業価値を見極める、いわゆる「目利き力」を発揮することで、取引先中小企業に対して積極的に資金供給を行っていきます。

(1) 不動産担保、個人保証に過度に依存しない融資の推進

○売掛債権担保融資の推進と ABL の検討

平成 27 年度 新規取扱件数 6 件・132 百万円の取扱いがありました。

- ・うち、流動債権担保融資の取扱い 1 件、動産担保融資の取扱い 4 件、流動債権・動産担保融資の取扱いが 1 件ありました。

(売掛債権担保 1 件・20,000 千円、動産担保 4 件・62,500 千円、動産・売電担

保1件・50,000千円の実績です。)

○シンジケートローンの組成と参加

- ・シンジケートローンの組成、参加実績はありませんでした。

○目利き能力の向上

- ・平成27年8月22日に、融資レベルアップ研修として、審査部および外部研修受講者を講師とし、(1)目利き能力向上、(2)経営改善支援の着眼点、(3)経営支援ツールの活用についての研修を、各店次席を中心として16名を対象に実施しました。
- ・平成27年12月9日に、融資レベルアップ研修として、新日本有限責任監査法人を講師とし、(1)自主再生の可能性の検討、(2)経営資源等の把握、(3)計画書の策定、(4)モニタリングについての研修を、支店長を中心とした14名を対象に実施しました。

4. 地域の情報集積を活用した持続可能な地域経済への貢献

《取組方針》

この地域のみが信用金庫の生きる地であり、金融の仲介は当然として、親睦、研修、情報交換、ボランティア等さまざまな面で中心的な役目を果たし、顧客・地域の活力作りに貢献することにより、地域に必要とされる金融機関であるため、各種の施策を通じて地域経済活性化、地方創生への取り組みを行ってまいります。

(1) 地方創生への取組

27年4月地方創生への対応として、地方創生担当部を設置、営業店長を地方創生担当者として全店に配置し本部と連携を図り地方版総合戦略に積極的に関与できるよう体制を整備しました。

地方版総合戦略の推進に向けて地元自治体、経済団体等と連携を図り、個別施策らについて金庫の持つ知見等を生かした機能を発揮し協力を行っています。

その取り組みの一つとして、中部地区SGEC認証林から生産された木材が、地域創生の資源としての役割を担うことが期待されており、当金庫と鳥取県中部森林組合、JA鳥取中央の3者が「SGEC認証材活用制度基本協定」に調印し、県産材の需要を拡大することを通じて、環境保全や地域の産業振興等を図っています。

さらに、倉吉市と金庫は地方創生の実現に向けて、互いに連携・協力することに合意し、地方創生に係る包括連携に関する協定を締結しました。

(2) 地域貢献に資するイベント・行事の開催と、地域経済活性化への取組み

文化・芸術の発展と街の賑わい創出に向けて、地元新聞社が主催する著名人による写真、絵画等の展覧会の特別協賛を継続するほか、以下の活動を行いました。

- ・27年度は4・7・10・1月の4回「くらしん囲碁大会」を開催し、地域の子供から高齢者まで毎回100人以上のファンに参加いただきました。特に、1月に開催した新春大会は、プロ棋士2名を招聘して開催し120名を超える参加者で賑わいました。この囲碁大会では、毎回地元出身のプロ棋士の指導碁等もあり、新規の参加者が増加しており、地域の囲碁の活性化に貢献しています。
- ・信用金庫のネットワークを活用し、全国の信用金庫の年金受給者対象の観光旅行を当地区に誘致し観光振興に貢献しています。27年度実績は27年5月～7月に1,200名(多摩信用金庫)の観光客を取引先温泉旅館と特産品土産物店に誘致しました。また、倉吉観光マイルス協会とも連携し、全国の信用金庫顧客の観光旅行誘致を目的に、地区内観光情報とともに誘致の依頼文書を発信し、地域活性化につなげていくような誘致活動を進めております。
- ・27年8月に開催の倉吉打吹まつりには、みつぼし踊りに約40名の職員が参加して、地域の人々と交流しました。
- ・27年10月、健康づくりを主体とした地域密着行事として「くらしん健康ウォーク」を開催し、250人の参加者を得ました。
- ・27年12月、当庫の若手職員で組織する「くらしんヤングコア」が福祉施設の清掃活動および街頭歳末助け合い募金を実施し、集まった募金を地域の社会福祉協議会に寄付しました。また、27年12月、地元の福祉施設2先に対して、恒例の新米を寄贈しました。

(3) ビジネスマッチングの推進

地元開催のビジネスイベントだけでなく、他地区のイベントへの参加についても積極的に取り組んでおり、27年5月開催の北おおさか信用金庫主催の「うまいもん市 in 万博」に当金庫のお取引先2先が参加されました。また、おかやま信金が中心に開催されている「岡山しんきんビジネス交流会」へも、山陽方面への展開を考えているお取引先に紹介を行った結果、2先が出展されました。

(4) 地元での買い物、発注を推奨する「地賛地商」運動の展開

地域経済の活性化を図る為、倉吉信用金庫では「地賛地商」をスローガンにしたPRポスターを平成22年度に作成・配布しましたが、27年度も外郭団体の講演会での参加者並びにポスター希望先へ配布し、引き続きポスターの活用を継続し地元での買い物、発注を啓蒙しています。